



いざというときのために訓練を

表 2 総合防災訓練会場 ※各会場には手話通訳者がいます。

	日にち	地区	会場
避難所訓練	9/5 (土)	姉崎地区	青葉台小学校
中央会場	9/6 (日)	三和地区	養老小学校
		市原地区	若宮小学校
		五井地区	東海中学校
		市津地区	市津運動広場
		辰巳台地区	辰巳台東小学校
		南総地区	鶴舞小学校
		加茂地区	里見小学校
		有秋地区	有秋南小学校
		ちはら台地区	清水谷小学校
		地区会場	9/6 (日)

表 3 消火器の販売・詰め替えなど

日時	場所	内容	金額
9/6 (日) 午前 9 時 ～ 正午	総合防災訓練会場 ※姉崎地区は姉崎支所	販売 粉末式 10 型	6,000 円
		詰め替え 粉末式 10 型	4,900 円
		消火器の引き取り (1 本)	1,000 円
		購入時の引き取り (1 本)	500 円

消火器に関する問合せ 市原消防設備協同組合 ☎1520



みんなで考えながら担架作り



中央会場では起震車体験も

て話し合い、次のことを確認しておきましょう。(一)一人ひとりの役割分担を決める。(二)非常持ち出し品を確認する。(三)防災用具を確認する。(四)連絡方法を確

問合せ先 Web 防災課 ☎239823

災害時の体験を
大規模地震などの広域的な災害が発生したとき、消防や警察、自衛隊などの公的機関(公助)は、すばやく駆けつけられません。災害直後は、まず『自分の身は自分で守る(自助)』、『自分たちの街は自分たちで守る(共助)』という気持ちが重要になります。

阪神・淡路大震災では生き残めや建物に閉じ込められ、助かった人のうちの約95%は自力で、または家族や隣人などの協力で救出されました。大規模な災害は、いつどこで発生してもおかしくないといわれています。昨年6月には岩手・宮城内陸地震が発生し、大きな被害をもたらしました。災害の

家族で確認を
年に一度は家族で防災について話し合い、次のことを確認しておきましょう。(一)一人ひとりの役割分担を決める。(二)非常持ち出し品を確認する。(三)防災用具を確認する。(四)連絡方法を確

市内十カ所で市総合防災訓練を実施
総合防災訓練として9月5日(土)に姉崎地区で避難所訓練を、6日(日)に姉崎地区を除く各地区で発災対応型訓練を実施します。突然の災害から大切な生命や財産を守るために総合防災訓練に参加して適切な行動がとれるように体験しておきましょう。

避難所訓練と発災対応型訓練を実施
避難所訓練 9月5日(土)午後5時から姉崎地区のみ・青葉台小学校
避難所訓練の内容 (一)避難所区分訓練 (二)避難者の班分けをし、体育館内を各班エリアに区分 (三)災害啓発訓練 (四)避難所生活の注意事項などの説明 (五)避難所整理訓練 (六)避難所を閉鎖する際の整理や後片付けなど
発災対応型訓練 9月6日(日)午前8時40分に防災行政無線によ

り、緊急地震速報の訓練放送を行います。総合防災訓練の各会場(表2参照)に集合しましょう(姉崎地区は除く)。
発災対応型訓練の内容(各会場により訓練内容が若干異なります) (一)避難誘導訓練 (二)地震発生により避難場所へ避難 (三)煙体験訓練 (四)スモークハウスを設置し、煙からの避難体験 (五)初期消火訓練 (六)訓練用消火器などによる消火 (七)応急救護訓練 (八)止血法や固定処置などの応急手当
消火器の販売など 各会場で消火器の販売や詰め替えなどを行います(表3参照)。



平成7年の阪神・淡路大震災では甚大な被害が

地震による被害想定
東京湾北部地震 市全域で、死者百六十九人、負傷者四千六百九十九人、避難者四万二千七百八十四人、全壊建物六千三百六十棟が予測されました(表1参照)。特に昭和35年以前の木造建物比率が高い地区で建物全壊率が高くなりました。市全域で、市原市直下の地震 市全域で、死者百十七人、負傷者三千五百四十八人、避難者二万三千百三

人、全壊建物四千三百四十九棟が予測されました(表1参照)。特に震源断層に近い市北部で建物全壊率が高くなりました。いずれの地震も建物被害が多い地区で人的被害も大きくなりました。
地区別防災カルテとは
地区別防災カルテ(図3参照)は、防災アセスメント調査結果について、小学校区単位に地図を活用してまとめたものです。危険箇所の分布や地震被害想定、調査結果、人口・建物分布、災害履歴情報などの基本情報と現地調査により得られた避難・防災対策上の要所などを整理し

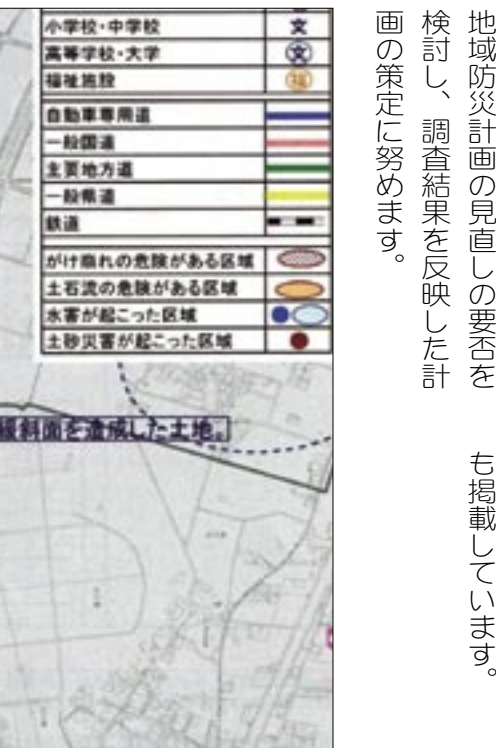


図3 地区別防災カルテ(市内を48地区に区分し、危険箇所などを整理。図は辰巳台西小学校区の一部)

今後の活用方法
避難収容施設や避難所の収容人数の検証、各地区の避難者数に即した食料や飲料水などの備蓄量の見直しを行います。また地域防災計画の見直しの要否を検討し、調査結果を反映した計画の策定に努めます。
詳しく知りたいときは
本調査結果と地区別防災カルテの詳細内容は、情報公開コーナーや中央図書館、公民館、コミュニティセンターで閲覧できます。また市ウェブサイトにも掲載しています。

防災啓発標語 平成20年度特選作品 若葉中学校 神谷海藍さん

ゆれている あなたの心の 注意の意識

防災アセスメント調査を実施し、地区別防災カルテを作成

市では、災害から市民の生命と財産を守るため、地域防災計画の前提となる防災アセスメント調査を実施し、小学校区単位による地区別防災カルテを作成しました。このカルテは、地域で想定される災害時に必要な情報が入手できるため、地域における防災対策に活用できます。日ごろから地域の連携を深め、協力し合う体制をつくりましょう。

問合せ先 Web 防災課 ☎239823

防災アセスメント調査とは
防災アセスメント調査は、地震や水害、土砂災害の危険性について、被害想定をまとめたものです。今回、災害履歴や浸水危険性、土砂災害危険性、地震被害想定を調査しました。とくに地震については、内閣府中央防災会議の『首都直下地震対策専門調査報告』に基づき、本市に大きな影響を及ぼすと思われる東京湾北部地震(マグニチュード7.3、震源域の特定は難しいが、近い将来発生する可能性が高い)と市原市直下の地震(M6.9、全国どこでも起こる可能性がある地震ではあるが、発生の確率は低い)を想定しました。
地震動の予測結果
東京湾北部地震 海岸沿いと養老川沿いの低地の広い範囲で震度6強、市西部の段丘や丘陵地で震度6弱、震源から距離のある南部と東部の丘陵地では震度5強が想定されました(図2参照)。
市原市直下の地震 海岸沿いと養老川沿いの低地の広い範囲で震度6強、市西部の段丘や丘陵地で震度6弱、震源から距離のある南部と東部の丘陵地では震度5強が想定されました(図2参照)。

図1 東京湾北部地震震度予測図

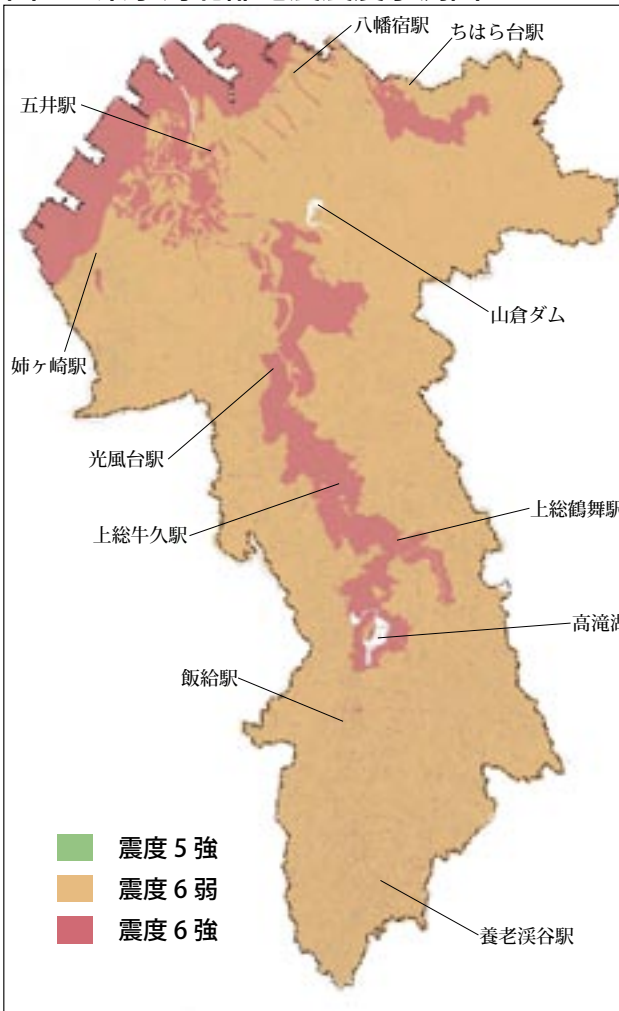


図2 市原市直下の地震震度予測図

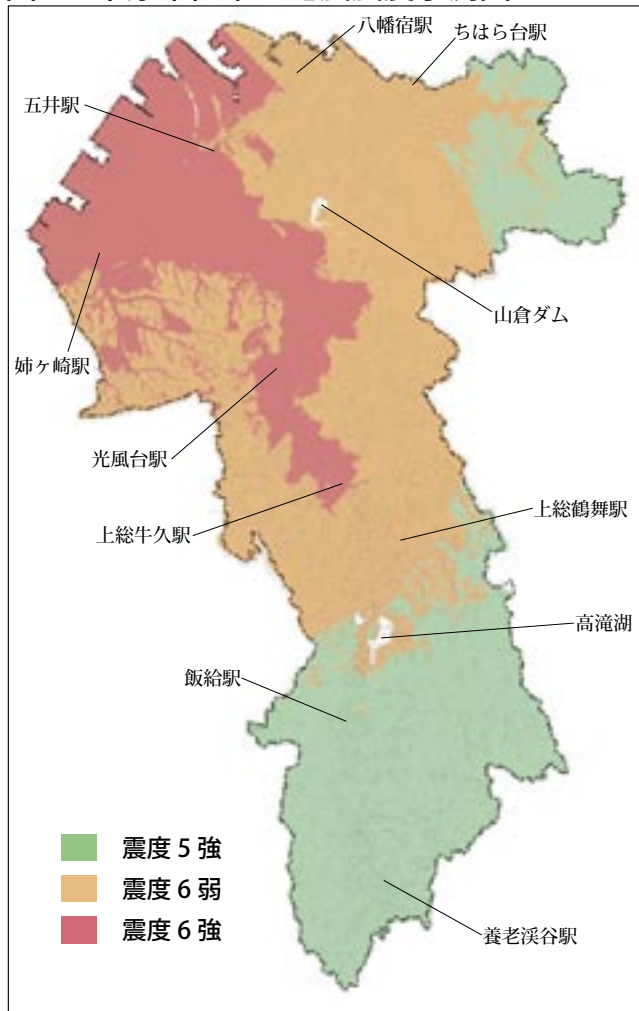


表1 地震による被害想定

想定地震	最大震度	死者	負傷者	避難者	全壊建物
東京湾北部地震	6強	169人	4,699人	42,784人	6,360棟
市原市直下の地震	6強	117人	3,548人	23,103人	4,349棟